授業科目名	日本語学概論Ａ	大学名	作新学院大学
科目区分	ＶＵ連携講座	開講時期	前期（4 月 11 日～8 月 2 日）
学部・学科等	人間文化学部・人間文化学科	曜日	木曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	3 時限目　13：00～14：30
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	２単位	授業会場	学内講義室
担当教員名	池上　啓		
電話番号（代表者名）		e-mail アドレス	
オフィスアワー	作新学院大学の資料を参照。また、授業時に申し出てくれれば、別途時間を取って、質問や相談に応じる。		

授業の概要

＜授業の目標及びねらい＞

主として音声や音韻構造の側面から、日本語はどういう特徴を持った言語なのかということを考える。日本語に使われている音にはどのようなものがあるか、それらはどのような形で造語法に関わっているかといったことを、具体的な事例に即して検討していく。同時に音声学や音韻論の基礎理論を押さえ、日本語、ひいては言語全般を分析するための学問的手法の習得を目指す。

＜前提とする知識・経験＞

高校までの学習では触れる機会の少ない言語学的な内容の授業なので、特別な前提知識は必要としない。

＜授業の具体的な進め方＞

現代日本語を材料として音声学的な言語の分析方法を解説する。例えば「あおまきがみ　あかまきがみ　きまきがみ」という早口言葉は言いにくいが、「わたしはとり　あなたもとり　みんなとり」は言いにくくはない。これは使われている音の性格に違いがあるからである。では、「音の性格の違い」とは具体的にどのようなものなのだろうか。このように、具体的な言語現象を材料にして、日本語学、一般言語学の基本概念を解説していく。

＜授業計画＞

第 1 週　日本語の音を構成する単位について。単音→音節→単語→文。
第 2 週　単音の分析(1)。調音点と調音法。早口言葉「あおまきがみ　あかまきがみ　～」
第 3 週　単音の分析(2)。有声音と無声音。
第 4 週　単音の分析(3)。硬口蓋音について。早口言葉「ジャズ歌手シャンソン歌手」。
第 5 週　単音の分析(4)。母音の分析方法。（第４回までは主として子音を扱っている）
第 6 週　音節の構造(1)。音節の構造は、単音の結合規則によって決まる。
第 7 週　単語の構造(1)。単語の構造は、音節の結合規則によって決まる。
第 8 週　単語の構造(2)。音節結合規則。なぜ日本語には濁音で始る単語がないのか？
第 9 週　単語の構造(3)。音節結合規則の存在理由。造語力と限定規則の関係。
第 10 週　単語の構造(4)。現代日本語に見られる、音節結合規則的な現象の正体。
第 11 週　単音レベルの造語法(1)。母音交替によるもの。
第 12 週　単音レベルの造語法(2)。子音交替によるもの。
第 13 週　動詞活用形の起源(1)。活用現象の正体。動詞の母音交替と名詞の母音交替。
第 14 週　動詞活用形の起源(2)。未然形原形説の全体像。
第 15 週　動詞活用形の起源(3)。未然形原形説の問題点。
学期末試験

＜教科書・参考書・教材と入手方法＞

教科書は使用しない。参考書については、必要に応じて授業中に紹介する。

＜成績評価法＞

学期末試験（100%）の結果で評価する。2/3（期末試験を含めて 10 回）以上出席しないと評価の対象としない。（単位を取得できない。）

＜教員からのメッセージ＞

日本語学、言語学というと堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、言語は人間の思考を表現するためのツールとして、合理的な側面と流動的な側面を合わせ持った不思議なものです。